

支

五年

画数 4
筆順 一 十 支 支

フン シ
ささひえる

成り立ち



数の多い意味を表した「十」と、手の意味を表した「又」とを組み合わせて作った字です。

「たくさんのお物を一つにまとめもつ」という意味の字です。「たくさんのお物を一点で、ささえる」ということで、「ささえる」という意味に使います。【例】支持、支点、支柱。

「助ける」という意味にもなります。【例】支持、支援。

「たくさんのお物を一つにまとめもつ」のを反対から見ると、「二つの物からたくさんのお物が分かれる」ことになるので、「分かれる」意味にも使われます。【例】支流、支店、支給。

使い方

▽ぼくは作文を書くのが苦手です。書いているうちに、支離滅裂になってしまふのです。どうしたら、うまく文章を書けるのか、誰か教えてくれないうか。
▽今度の日曜日に、仲良し会を開きます。支障の無い人は、わたしの家に集まって下さい。

熟語例

▽支持(支えること。また、賛成し、応援すること。「この意見を支持する人は手をあげて下さい」などというふうに、つかいます。)
▽支点(支える点。てこなどの運動の中心となつてささえている点のことを言います。)
▽支柱(支えの柱。「サムソンが支柱を押すと、支柱は二つに折れ、神殿はガラガラと音をたてて崩れました」などというふうに、つかいます。)
▽支援(支え、援助すること。助けること。「みなさまの支援のおかげで、当選することができました」などというふうに、つかいます。)
▽支離滅裂(筋道が立っていないで、乱れていること。)
▽支障(さしさわり)

志

五年

画数 7
筆順 十 士 志

フン シ
こころざし・こころざし

成り立ち



「りっぱな男子」という意味を表した「士」と、「心」という字とを組み合わせて作った字です。

「りっぱな男子になろうと」心に決める「心」を表した字です。これを「こころざす」と言います。また、「心に決めたこと」という意味にも使います。これは、「こころざし」と言います。

『三国志』という書物があります。中国の昔の話で、魏、呉、蜀の三つの国の興亡を書いた書物です。書物はふつう「誌(時 90)」と言いますから、『三国志』の「志」は「誌」の略字と見たら良いと思います。

使い方

▽昔の人は、「立志は成功の半ば」と言つて、志を立てることの大切さを教えています。立志とは、りっぱな目標を立てて、それを必ず達成するぞという意志を固めることだと思ひます。

熟語例

▽立志(志を立てること。心に目標をたてること。)
▽意志(意は、志をふくめた「心の働き」。使い方によつては、「心」の意味になり、「志」になり、「考え」の意味にもなります。)
▽志望(志し望むこと。【例】私の兄は進学志望です。)
▽志願(志し願うこと。決心し、求めて願ひ出ることです。【例】入学志願者)
▽志気(事をしようとする強い気持ち。なにかをなしとげようという意気込み)
▽大志(大きな志。【例】少年よ、大志をいだけ)
▽初志(初めて志をたてた時のその気持ち。【例】初志を貫徹する(つらぬく)。)
▽有志(志の有る人。ある事をしようという意志をもつた仲間のこと。)